

**新社会党労働運動委員会第24回全国総会  
ユニオン役員協議会第11回総会**

労働法制の改悪を許さない！  
 ◆雇用形態を破壊させる終身雇用制の廃止  
 ◆労働の移動を促進させる首切り自由  
 ◆裁量労働対象の拡大  
 労働運動の成果から学ぶ  
 ◆大家学習運動  
 ◆組織拡大運動

日時：11月16日(土)14時～17日(日)12時  
 ユニオン役員協議会 11月16日 11:30～13:30

場所：神田神保町区民館3FA室(東京都千代田区)  
 参加費：12,000円(1日1千円・懇親会4千円)  
 宿泊：韓国YMCA




**労働運動委員会ニュース**  
 No. 232 2019年8月30日

発行責任者 宮川 敏一  
 東京都千代田区神田神保町 2-10 三辰工業ビル 3階  
 TEL (03) 6380-9960 FAX (03) 6380-9963  
 E-mail miyakawa@sinsyakai.or.jp

**日本だけ賃金低下が続く  
97年比 先進国で唯一減り続ける**

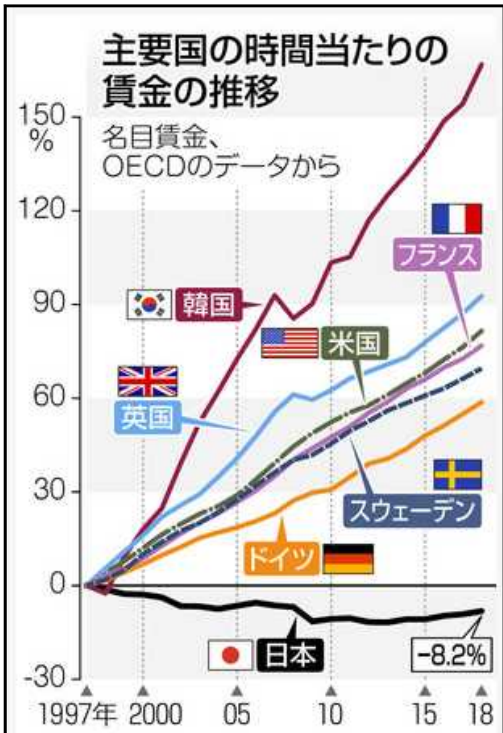
時間あたりでみた日本の賃金は過去21年間で8%減り、先進国中でマイナスなのは日本だけ。経済協力開発機構(OECD)の統計で明らかになった。

企業の搾取強化は、人件費を大きく削り、資本の利潤だけを増やしている。「働けど賃金低迷」の状況が広がり、ワーキングプアは増え続ける。

実質賃金の低下は、消費を冷や込ませる悪循環を招いている。賃金低迷は現役世代の困窮を招くだけでなく、年金の支給額の低下に直結している。安倍政権はこれらを無視するようにアベノミクス効果で「過去最

高の賃金水準だ」と大ウソをつく。

残業代も含めた全労働者の収入に基づき、「一人当たりの賃金」を各国通貨ベースで算出、指数化すると、18年時点での日本人の1時間あたりの賃金は97年に比べ8.2%減少。これに対し、イギリス(92%増)、アメリカ(81%増)などは軒並み増加している。物価上昇分を差し引いた実際の購買力である実質賃金でも日本は10%も下がっている。イギリス(41%増)、アメリカ(25%増)などは上がっているのと正反対だ。



出典：東京新聞



佐野SEフードコートにある自動券売機。販売は佐野ラーメンのみ。8月20日撮影

経済成長が続けば物価や賃金も連動して上がるのがこれまでの経済の通例。それだけに日本だけが下がる理由は、資本の搾取に起因する。

政府は労働者派遣法改悪などで、企業の人件費削減を容易にした。賃金の安い非正規雇用の比率は97年の23.2%から、18年の37.8%に上昇している。

**交渉もしない社長に不安広がる  
東北道・佐野SEのストライキ**

東北道・佐野サービ

スエリア上り線のフードコートと売店を運営する、栃木県佐野市のケイセイ・フーズの労働者が8月14日からストライキに入った。事態を調べると「同社の親会社は地元の建設会社。信用不安情報から、7月25日前後にフードコートや売店に商品の納入が極端に少なくな

った。会社運営の資金繰りの問題を糾弾した労働者が解雇された。不満に思った労働者はストに及んだ。8月20日の12時に佐野サービスエリアを訪ねた。レストランに足を運ぶと「営業休止中」の張り紙が扉に貼られていた。ストは現在も続いている。(8月30日現在)

# ユニオンネット平和センター 個人加盟で裾野を広げよる

ユニオンネット平和センター（ユニオン平和）は、平和フォーラムの「平和・人権・環境」理念のもとに4月25日に平和フォーラムに中央団体として加盟しました。

ユニオン平和は、東京・千代田区神田の本部を拠点に活動を進める。平和フォーラム常任幹事会・原水禁会議に常任幹事の滝沢・芝崎を送り、毎月1回の会議に参加している。

また、ユニオン平和に於

いても毎月第4木曜日を定例に幹事会を開き、学習と取り組み課題を議論して、平和フォーラムの行動に参加している。

ユニオン平和は組織拡大と財政基盤の確立を目指し、団体・個人（サポート）加入を呼びかけている。

- ◆ 団体 2千円/年（一口）
- ◆ 個人 1千円/年（一口）

皆さま一人ひとりの活動と支援でユニオン平和の組織の発展と我が労働運動部隊の認知度を高めたい。



国会19日行動で

# JAL不当解雇撤回の闘いは終わらない 山口団長が語る闘いのすべて！

闘争団と支援団体が手を取り合って全国を駆け巡り、支援共闘組織を広げた。

「ストライキをすれば政府の援助が受けられなくなる」などデマ宣伝で、労働組合の活動を妨害した。裁判では最高裁まで争われ、不当労働行為として会社の闘争団と支援団体が手を取り合って全国を駆け巡り、支援共闘組織を広げた。

上告は棄却された。10年の大晦日にパイロットと客室乗務員が大量に首を切られた。JALが自ら招いた経営の失敗を現場で働く労働者に転化した。そればかりではない。「空の安全」を追求する労働組合をつぶす狙いもあった。職場復帰の願いは、裁判では踏みじられた。それでも、「職場に戻ろう」の思いを闘う武器として、あきらめず職場復帰をめざしている。山口宏弥団長始め、闘争団は全国を回っている。

闘いの教訓を学ぶ「労働運動学習会」への参加を呼びかけます。

# 闘い続けることが力を強くする 職場復帰にこだわり、JAL不当労働行為（組合潰し）徹底追求 労働運動学習会の呼びかけ

開講日 & 場所

2019年9月14日(土) 13時00分(開会)

新社会党中央本部会議室  
東京都千代田区神田神保町2-10三辰工業ビル3F  
交通：JR・都営三田線水道橋駅から徒歩10分、  
東京メトロ半蔵門線・都営三田線・新宿線神保町駅から徒歩5分

テーマ & 講師

テーマ：「安全な翼を求めて」  
不当解雇撤回・全員の職場復帰を  
講師：山口 宏弥氏 (不当解雇撤回原告団長)  
資料代・500円

## 《働き続け、空の安全を守るために》

「私は日航の乗員として、仲間と共に「空の安全」を守る闘いをやってきた。そして2010年の大晦日に解雇された。それから8年9ヵ月、闘争支援の呼びかけを経て、全国からの支援の輪は広がっている。

もの言う労働者の解雇が、安全運航の基盤を切り崩しているという企業の自覚が無い。「安全」でなければ職場は無い。働かなければ生活ができない。「安全」を守る闘いに妥協はない」。山口宏弥さんは、労働組合の強化と共に、JAL不当解雇撤回、職場復帰まで頑張る決意でいる。



仲間を大切にする人柄に引かれる山口宏弥団長

主催：新社会党労働運動委員会  
問い合わせ：宮川敏一 090-2242-1303